

会 議 等 の 概 要

名 称	高校生とのまちかどミーティングについて
開催日時	平成 22 年 11 月 25 日（木）午後 4 時～午後 5 時 30 分
開催場所	能代西高等学校 会議室
出席者	【学校】2、3 年生 22 人、校長先生ほか 【市】市長、市民福祉部長、企画部長、環境衛生課長、地域情報課長、広報広聴係
案 件	高校生からの提言「人にやさしいまちづくりのために」

（主な意見・決定事項等）

高校生からの提言「人にやさしいまちづくりのために」

①生徒会：古紙回収活動について

西高生徒会では年間を通じて古紙回収活動を行っている。ビジネス系列が古紙回収して西高産のトイレットペーパーを作ったのがきっかけ。生徒会では回収から業者引き渡しまで行っており、活動は 4 年目になる。古紙は能代製紙でトイレットペーパーに加工してもらっている。昨年度はトイレットペーパー 2,000 個分。校内で使用したほか、校外活動時に学校活動紹介も含めて展示販売している。環境のために実施しているが、各クラスからの回収が少ないといった課題もある。11 月から新体制の生徒会になり、改めて取り組んでみたい。

【生徒】

能代市では回収した資源をどのように活用しているか。

【市長】

二ツ井地域局でも同じような取り組みを行っている。庁内から出たコピー用紙、新聞紙、段ボール等を能代製紙に持ち込みトイレットペーパーと交換している。能代市の資源ごみの回収品目は、新聞などの紙類、アルミ缶などの缶類、びん類、ペットボトル、容器包装プラスチックなど。資源ごみの処理は、紙類、缶類は、資源回収業者に売却している。びん類、ペットボトル、容器包装プラスチックは、財団法人日本容器包装リサイクル協会に引き渡しし、同協会から再商品化事業者に引き渡され、ガラスびんの原材料、プラスチック原材料、化学繊維原料等に再商品化されている。平成 21 年度の紙類の回収量は、新聞 392 トン、雑誌類 499 トン、段ボール類 201 トン、合計 1,092 トンであり、売払い金額は 7,124 千円。けっこうなお金になっている。

【生徒】

市民レベルでの活動は。

【市長】

市民レベルでの活動については、市では、資源ごみの回収を促進するために、自治会、婦人会、子供会、PTA などの団体を対象に資源ごみ回収促進報償金支給要綱を制定した。内容は、紙類、缶類、びん類（酒びん、ビールびん）を団体が回収し、回収業者に引き渡した場合、回収業者からの売払い金とは別に 1kg 当たり 4 円の報奨金を支払うもの。平成 21 年度実績は 13 団体で 73 トン、報償金は 291 千円で、市ではこの制度を利用しながら、ごみの減量化を進めてもらいたいと思っている。

②ビジネス系列：市街地の活性化を目指して

私たちは簿記会計、情報処理、コンピュータ操作、マーケティングなどを勉強している。3年生の夏休みには空き店舗を利用してチャレンジショップを運営している。少しでも商店街への賑わい創出と、学んだ知識を生かせればと思っている。チャレンジショップでは、学校で収穫した野菜や草花、農産物、県内外の特産品、峰浜の梨や八森のしょつつる、ネギなどを活用したオリジナル商品、古紙回収で得たトイレットペーパーなどを販売している。産業フェアでも販売し、接客の難しさを実感した。チャレンジショップでは地域とのふれあいを感じ、ビジネスの大変さも感じた。

【生徒】

空き店舗が柳町に少ないこともあり、チャレンジショップを出すための高い家賃がかかる。市から高校生の学習の場所として提供してほしい。

【市長】

西高には産業フェアにも出展してもらっており、感謝している。市では、畠町にチャレンジショップを2店用意している。なぜあの場所にプレハブなのかと疑問のはず。本当であれば、空き店舗を活用し、シャッターを開けたお店でチャレンジしてもらいたかった。だが、あれだけシャッターの閉まった店はあるが、チャレンジショップとして貸してくれる店が無かったので、空き地を借りてプレハブを設置した。家賃と光熱費が無料だが、貸出は6ヵ月単位。その他、畠町にある中心市街地活性化室にはフリースペースがあるので、受付順だが、ここの活用を考えてはどうか。また、市民プラザなどもあるので、いつでも相談してほしい。

【生徒】

チャレンジショップを訪れる人の中には自動車や自転車で来る人もいる。路上駐車等で地域に迷惑をかけている。駐車場、駐輪場の設置をお願いしたい。

【市長】

商店街への駐車場整備は昔年の課題。大通りにパーキングメーターでも良いので設置できないかと検討したが出来ずにいる。チャレンジショップの場合は後に駐車場を用意している。商店街に駐車場が足りないのはそのとおり。街の再開発とはいかないが、今後、商店街にスペースが出てきたときは駐車場というものも検討していきたい。

【生徒】

商品開発に協力してくれる企業が少ない。オリジナル商品をつくるには企業の協力が必要。能代を元気にする活動のため市長からも企業に呼び掛けてほしい。

【市長】

商品開発したものを企業がしっかり造り、販売する部分が能代は弱い。原材料は良いものがあるが、そのままでは値段が安いので収入も低い。できれば加工して販売できれば。一緒に開発したり、実際に産業化するときに、企業が弱いとは感じている。でもこのままでは能代が誇れる商品はなかなか生まれない。商品開発という部分では商工会議所、商工会とも相談しながら力になってもらえる企業を探していきたい。

二ツ井高校からも「能代梨」で商品開発できないかと言われた。高校生の視点は面白いし、西高の梨を使ったオリジナル商品も参考になると思う。

【生徒】

これからも地域貢献とは何かを考えながら、地域の力になれる活動をしていく。今年度は高校生商品開発コンテストに参加した。入賞こそできなかったが、改良を重ね、次のコンテストでは上位入賞を目指してがんばりたい。

③情報科学系列：リサイクル（こでん回収）の構築を目指して

「環境・資源・エネルギー・リサイクル」について学習している。レアメタルなどの「こでん回収」は全国に先駆けて平成 18 年から秋田県で始まり、平成 20 年から国のモデル事業になった。県では 4 年間で 73 トンのこでんを回収した。今年 12 月でモデル事業は終わり、今後は関係者による実証研究が行われる。

【生徒】

能代市内では、こでん回収活動についてどのくらい P R されていて、市民はそれについてどれくらい理解しているか。また、回収日を設けることを提案したい。

【市長】

能代市には回収ボックスが平成 20 年 11 月までは、スーパーや家電販売店、山本地域振興局に合計 7 カ所設置していたが、国のモデル事業により、新たに、市の施設など 10 カ所（本庁舎、二ツ井地域局、富根出張所、6 地域センター、市民プラザ）を増設し、合計 17 カ所になった。広報等で P R しながら集めているが、回収状況は平成 19 年度 29.80kg、20 年度 566.91kg、21 年度 949.25kg と年々増加している。この回収量の増加が市民の理解を現わしていると考えている。今後も広報やホームページでの P R する。回収日については、17 のステーションには毎日出すことができるので理解してもらいたい。

【生徒】

11 月から、不用プラスチックの回収が始まったが、こでん回収との相乗効果など影響はあるか。

【市長】

回収対象となる製品プラスチックは、バケツや衣料ケースなどのケース類、おもちゃ、その他プラスチックでできているもの。プラスチックについている金属は、取り除いてもらうので、こでんの対象となる使用済み小型家電は対象になっていない。電池で動くプラ製品等を想定すれば効果があがるかもしれない。

ちなみに、皆さんの身近なものでは携帯電話からも金を取り出せる。県北エコタウン構想が国から認められ、循環資源型の地域づくりを進めている。物流の中心は能代港であり、能代近辺の企業が担っている。

就職先が無くて困っていることもあるので、リサイクルによる地域活性化と、雇用を生み出していきたい。こでんを回収したらそのまま大館・小坂に持って行くのではなく、中間処理でプラスチックと基板にわけて、基板だけを大館・小坂に持って行く。プラスチックからは建築資材等を作るといった新しい産業も考えられている。能代にも中間処理で出たもので新たな製品づくりを行っている会社がある。

【生徒】

回収場所が設置されているのはわかったが、調べるまでは、どれが回収ボックスかわからなかった。回収ボックスのデザインを変えてみてはどうか。

【市長】

目立たなければ意味がないので、検討する。広報、ホームページを使った周知も頻度をあげて行う。

④生活福祉系列：安全・安心で活気ある能代へ

衣食住・保育など家庭に関する科目と、福祉に関する科目を中心に学習している。家庭科では資格取得、養護学校との交流なども行い、福祉科ではヘルパー 2 級取得を目指している。菜の花畑、ひまわり畑、コスモス畑を利用し、地域の方々と交流を図っている。昨年度は地

域・学校の連携活動で、食の安全に取り組み、地産地消レシピを研究し、米粉を使ったレシピを県高等学校産業教育フェアや国際ソロプチミスト能代の体験発表会などで紹介した。このように生活福祉系列では人との関わりを学んでいる。この経験を生かして地元で働きたいという生徒もいるが、能代山本に就職できない人や、就職が決定していない人もいる。

【生徒】

能代市にも介護施設がたくさんあるが、高卒で採用してくれる施設は少なく、県外に就職を決めた生徒も多い。能代の福祉活動に貢献したいので、若い人材が能代を離れなくても活躍できる場を与えてほしい。

【市長】

能代の住みたい、能代で働きたい、愛着あるふるさとにいたいのに、働き場がなく辛いという思いが伝わった。学んだことを生かせる就職の場を確保していくことが私の責務。皆さんの思いを受けとめる。ハローワーク能代管内の有効求人倍率は、平成 22 年 9 月末で 0.44 と、求職者 2 人に対し、求人は 1 人分に満たない。新たな企業誘致のほか、業起こしも併せて進めることで雇用の維持、拡大を図りたい。

【生徒】

ヘルパー 2 級の訪問介護実習では、受け入れの実習先が少なく苦勞している。受け入れに協力してくれる事業所の確保に協力してほしい。

【市長】

私もよく聞く。今までは能代文化学院と能代西高に限り、社会福祉協議会が受け入れていたが、人数が増えたため応えられなかった。なぜ、訪問介護事業所が 17 施設もあるのに受け入れできずにいるかということ、施設の規模や受入態勢のほか、訪問を受ける高齢者やその家族の理解がなかなか得られないという事情もある。市でも、機会を捉えて事業者に資格取得のための実習協力を働きかけていきたい。

【生徒】

「ひまわり号と走ろう」に参加した。もっとバリアフリーが進めば、高齢者も障がい者も、けがをした人も安全に生活できる街になると思う。

【市長】

能代市は 32.9% の高齢化率。出来る限りバリアフリー化を進めるが、施設や道路の構造上できないところもある。100% は難しいが違和感なく生活できるよう環境整備したい。

【生徒】

子どもたちが安全に遊べるような遊び場確保も必要と思う。

【市長】

市内の公園には、傷んだ遊具があったが撤去したため遊具がない公園がある。そのため概ね半径 500m の範囲に地域の中心となる公園を決め、遊具の整備や補修を進めている。新たにブランコ等を整備し、歩いて遊びに行ける安全な公園を作ってる。また、屋内では子育て支援センターのほか、私立の幼稚園、保育所も積極的に交流の場を提供しているほか、ジャスコ能代店内にも交流の場を目的とした「つどいの広場」がある。

【市長】

人生の先輩が健康で生きがいを持ってもらうため、青空デイサービス事業もやっている。元気な人たちが農作物を作って収穫したものをみんなで食べたりしている。今年で 2 年目だが、大変好評。うちに引きこもるのでは外に出る環境をつくっていききたい。経験、

技術がある高齢者がまちづくりや経験をいかせる場があっても良い。65 歳以上でないと働けない工場があってもいい。

⑤生物資源系列：総合学科だからできる循環型環境社会を目指して

- ・ 本当のエコとはなにか → 生ごみを捨てないこと。
生ごみから肥料を作り、ペレット化に成功した。生ごみ回収で能代養護学校や地域と連携を深めることができ、啓蒙活動もできた。
- ・ 人体のアレルギーと食の安全は → 化学肥料、農薬は使用しないこと。
有機の畑作りと有機無農薬水田 30 アール栽培している。予算が足りず齊藤憲三顕彰会から研究費 25 万円をもらった。高温によるテントウム虫大発生など苦労した。目標は 60kg あたり 5 万円の無農薬有機栽培の米を販売すること。アレルギー、薬を飲んでいる人、食に安全を求める人から需要あり。
- ・ 秋田の活性化のため農業を含めた戦略は → 安全な生産物と付加価値により産業を活性化させる。ネギドレッシングや米粉を使った創作料理。全国展開中の商品もあり。
- ・ 実業を学ぶ私たちにとって、基礎・基本も大事だが、地域、社会、企業、大学との連携や技術交流は興味深い。総合学科だからこそ循環型環境社会について考えることができた。

【生徒】

今後、産業フェアのような、高校生から情報発信を行える場を考えているか。

【市長】

様々な商品開発があるので、発表できる場を考えてみたい。国・県とも連携しながら皆さんの研究を発表できる場を探す。

【生徒】

無農薬有機栽培について商品化のためのバックアップを。

【市長】

農家が有機栽培に取り組む際、農家への助成事業はあるが、特別枠で西高も対象になるか検討する。条件もあるし、財政事情もある。

【生徒】

生ごみ処理について新しい取り組みがあるか。また、西高では菜の花畑などにたくさんの市民が見学に訪れる。市と提携して何かできないか。

【市長】

生ゴミへの新たな取り組みは無いが、バイオマスタウン構想のなかで議論している。コンポスト見なおし隊の活動もあるので、リンクさせながら取り組んでみたい。菜の花畑については、吉野石膏の敷地に去年、菜の花畑ができた。今年はみんなで見れるようイベントを考え中。西高の皆さんが菜の花でいろいろなことをやっているのはわかるので、鶴形も併せて、みんなとコラボレーションしてみたい。

4 フリートーク

【生徒】

学校から大通りまでの歩道が暗くて危険なので街灯の数を増やしてほしい。

【市長】

暗い場所、危険な場所については道路河川課で調べてみる。市道であれば街灯を増やせないか考えてみる。

【生徒】

東能代駅からスクールバスがあるととても便利だと思います。

【市長】

東能代駅からの利用が見込まれるようであれば、市からも秋北バスに検討するよう要望したい。現在、東能代駅からステーションまでの路線があるので、乗り替えになるが、接続ができるよう調整することも考えられる。利用度を教えてほしい。

【生徒】

向能代駅発着の列車の本数がとても少ないので、部活動や放課後の活動が不便。

【市長】

バスと同じ回答になるが、増便については、利用見込みが多くなければ実現は厳しいと思われる。利用度をみてＪＲへの要望活動につなげる。